

## 6 指導者及びボランティアを養成する事業

# ボランティアセミナー

## 1 事業のねらい

講義や演習をとおして、青少年教育施設のボランティア活動についての基礎的な知識や技術を学び、実践する意欲を育成します。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.7.2(土)～3(日) 1泊2日
- 対象 高校生以上
- 人数 大学生13名
- 場所 ネパール砂川
- 協力 空知教育局

## 3 プログラム

2 日 (土)	10:30		11:00	12:00	13:00	13:30	15:30	19:30	21:00	22:00
	12:30～受付			出さのし	活動1 講義・交流	活動2 野外炊飯とSDGs (薪でご飯とカレーを作って食べる)	活動3 ニュースポーツ (モルック等)	入浴 自由交流	消灯・就寝	
3 日 (日)	9:30	10:30	12:30	13:30	15:30					
	起床・朝食 活動準備	活動4 テント設営 (撤去まで) 雨天時：体育館	活動5 障がいを持つ 方への支援に ついて	昼食	ふりかえり	15:30 解散				

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 野外炊飯での安全管理の方法を学ぶことを軸とした展開
  - ・「活動1における野外炊飯の危険予知トレーニング」「野外炊飯」「ふりかえりにおける野外炊飯のセーフティトーク」を2日間にわたり実施することにより、安全管理の視点を意識しながらの実践、体験を踏まえたセーフティトークを参加者が主体的に考えながら取り組めるようにした。
- ボランティアとしての活躍の場を想定したプログラム構成
  - ・「野外炊飯」を始め、当施設のもつ「ニュースポーツのプログラム」「障がいのある方への支援」「テントの立て方、片付け方」を学べるよう構成した。



危険予知トレーニング

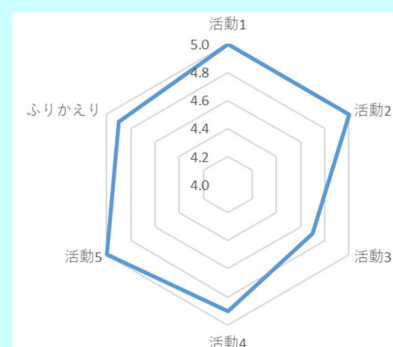


野外炊飯

## 5 事業の評価

「プログラムの内容は今後の活動に役立ちそうか」  
(5点満点の平均) 回答数13

- 参加者アンケートから  
各活動プログラムの内容に対し、今後の活動で役立ちそうかという問いに対し、すべての項目で平均が5点満点の4.7点を超えた。
- 感想  
「実際にボランティアをする際に気をつける点などを再度確認できたので、この経験を生かしてがんばりたい」



## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 感想を見るとボランティアとしての心構えや安全管理の視点等を体験をとおして身につけるといったねらった成果は得られたと考える。
- 安全管理やボランティアの心構えなどの内容を軸に1泊2日でセミナーを構成した場合、ボランティアの柔軟な発想を生かした事業の企画・立案・実施といった内容にまで踏み込むことは難しい。



## 企画のポイント

ネパールのボランティアとして活躍するための心が構え、安全管理の視点、技術等を身につける。

# ラグビー教室・ラグビーティーチャー研修会

## 1 事業のねらい

誰もがスポーツに親しむことができる「ラグビー」における指導者養成研修会を開催し、「ラグビー」の指導者を養成するとともに、スポーツを通じた地域の活性化や青少年の健全育成など、これからの地域づくりに資する人材育成を図る。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.10.10(月) 日帰り
- 対象 ラグビー教室 小学生  
ラグビーティーチャー研修会 高校・大学生、一般
- 人数 ラグビー教室 15名  
ラグビーティーチャー研修会 11名
- 場所 ネイパル砂川
- 共催 北海道ラグビーフットボール協会、株式会社メディカルシステムネットワーク（なの花薬局）、砂川市教育委員会

## 3 プログラム

日時	8:45	9:00	9:45	10:00	12:00
10/10 (月)	ラグビー研修会				
	受付	開会	講義	実技	閉会
	ラグビー教室				
		受付		教室	解散

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 講義（研修会）の場と実技（教室）の場を設けたプログラム
  - 北海道ラグビーフットボール協会から講師派遣を受けることや協会のもつ研修会、教室の開催ノウハウを生かすことにより、研修会と教室を両立させた。
  - 高校ラグビー部等への声かけにより、若年層の指導者養成の一助とした。



講義（研修会）の様子



ゲーム（教室）の様子

## 5 事業の評価

- ラグビー教室参加者の感想  
「初めてラグビーをやったけど楽しかった」、「学校でやったことがあったけど、今回はルールがよくわかって良かった」
- ラグビーティーチャー研修会の感想  
「ラグビーティーチャーの資格付与の講習が近場でなく、今回受講することができて良かった」、「小学生に説明する様子を見ることができ、参考になった」

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 資格付与を前提とした事業であり、その資格を付与できる専門人材を抱える協会との共催事業を行うことにより、指導内容の充実を図ることができた。
- スポーツの指導者養成をスポーツの日に行う意義を考え実施したが、スポーツイベントが競合する日の実施となってしまう、資格付与の講習に参加したくてもできないという声があった。



### 企画のポイント

専門人材を抱える組織との連携により内容を充実させた事業を展開する。

# ボランティアセミナー

## 1 事業のねらい

事業運営に必要な安全管理や参加者とのかかわりについて学び、ボランティアとしての資質向上を図ります。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.5.7(土)～8(日) 1泊2日
- 対象 高校生以上
- 人数 20名
- 場所 ネイパル深川

## 3 プログラム

日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
5/7 (土)	★受付時間		13:00～13:30		★開会式		13:30～14:00		受付	開会式	ボランティアとは!?	部屋点検 名人	入室	夕食	交流	登録について	入浴	消灯
5/8 (日)	朝食 食堂	清掃	準備	子どもたちと 活動してみよう!		昼食 食堂	ふり かえり	閉 会 式	★解散 14:30									

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

### ■ボランティアとは!?

- ・ボランティアとしての事業運営における役割や注意すべき点を講義形式で説明し、活動中のリスクマネジメントについてはグループワークを通じて翌日の本番における危険要素の共通理解と、危機察知能力の向上を図った。

### ■子どもたちと活動してみよう!

- ・子供たちの「キャンドルランタン作り」の支援にあたり、円滑な事業の運営と子ども達が最後まで安全に活動に取り組めるように実践活動を行い、今後のボランティア活動に向けた経験を積む機会となった。

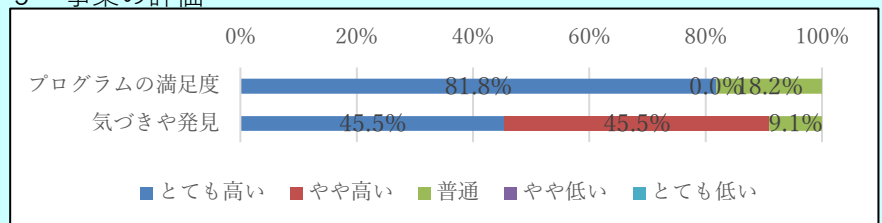


ボランティアの役割について学ぶ



子ども達の工作活動を支援

## 5 事業の評価



### ■参加者アンケートから、

- ・説明が細かく丁寧だが資料内容を口語で解説するだけでなく、要点を踏まえたより分かりやすい内容だと飽きづらいのでは。
- ・実践活動の内容に子供たちができる作業が少ないように感じた。

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 中学生ボランティアであるネイパル部との交流会は、コミュニケーションが必須となる内容を取り入れたことで参加者間の交流が深まり、実践事業に向けた関係づくりにつながった。
- 説明資料の内容を補完するような視覚的資料を取り入れて、参加者のボランティア活動に対するより深い理解を図るようにしていく。



## 企画のポイント

ボランティア活動への参加を通じた人間的な成長機会を提供するきっかけ作り

# ネイパル部に入ろう！

## 1 事業のねらい

「ネイパル部」について知り、ネイパル部としての自覚を持ち、有意義な活動にするための機会とする。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.5.7(土)～8(日) 1泊2日
- 対象 中学生
- 人数 15名
- 場所 ネイパル深川

## 3 プログラム

	13:30		14:00		16:00		17:00		17:30	18:30		19:30		20:30		21:30	
5/7(土)			受付	活動1 ネイパル部って？		活動2 部屋点検名人 になろう		入室	夕食	活動3 交流会		入浴等	勉強		就寝		
	7:00		8:00		9:00		12:00		13:00		14:30						
5/8(日)	起床	朝食	清掃	活動4 実践事業 「ボランティアと遊ぼう！」		昼食	ふりかえり		解散								

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 「ネイパル部」の位置づけ
  - ・これから一年間「ネイパル部」として活動していくうえで、どのような心構えでいるのか、どのような活動をするのかを明確にすることにより、見通しを立てられるよう工夫した。
- 主催事業での実践
  - ・2日目に行った主催事業「ボランティアと遊ぼう！」にネイパル部として参加し、前日に学んだことを活かし活動に取り組んでもらった。そうすることで今後の事業のイメージをつかんでもらえるようにした。

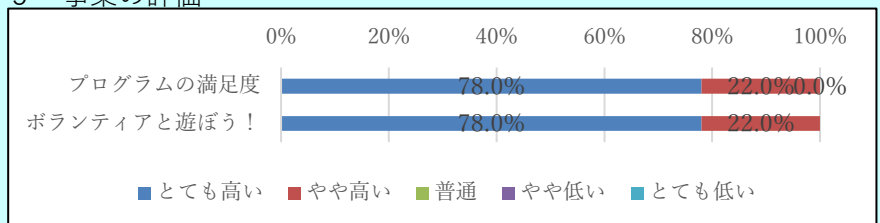


主催事業での実践活動



実際に部屋を確認

## 5 事業の評価



■参加者アンケートから、「部屋点検名人」では実際に自分で点検するので確認できてよいという声が多かった。

■実際に行う活動を事前に行うというのが高評価であった。

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「ネイパル部」としての活動が、実践事業を経験することで今後の事業の動きや注意すべき点について、見通しを立てられたと考える。
- ネイパル部員がすべての職員と関わっていないので、今後の事業時、距離を縮めていく必要がある。



### 企画のポイント

参加者の手本として一年間活動をするという自覚を持ち、有意義な活動を送る。

## 1 事業のねらい

友人と参加し、一緒に活動してもらうことで、友人同士の絆を深めるとともに、初めての参加者が安心して利用できる環境により、今後の施設利用の意欲づけをする。

## 2 事業の概要

- 期日 R5.2.25(土)～26(日) 1泊2日
- 対象 小学校3年生～6年生 18組程度  
中学校1年生～3年生 5名程度
- 人数 小学生21組92名(応募76組332名から抽選)  
中学生11名(応募12名)
- 場所 ネイパル森

## 3 プログラム

	13:00	13:15	15:30	17:30	18:30	19:30	22:00
1/21 (土)	受付	開会式	活動1 館内ラリー (半数入替) 活動2 森のストラップづくり 活動2 森のストラップづくり 活動1 館内ラリー 【ネイパル森】	活動3【ネイパル森】 スノーキャンドルづくり	夕食	点灯式	入浴 自由時間 就寝
	7:15	8:30	11:00	11:20	11:30		
1/22 (日)	起床	朝食	活動4 キンボール (半数入替) 活動5 カードクリップづくり 活動5 カードクリップづくり 活動4 キンボール 【ネイパル森】	アンケート 記入	閉会式	終了	

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 友人との絆を深めるためのプログラム構成
  - ・活動2及び5では、参加の記念となり、思い出として残せる創作活動を用意した。また、活動3ではグループで協力してスノーキャンドルを作成する活動を提供し、友人との交流を促進させた。
- グループ間の交流を促進するための仕掛け
  - ・活動1では他グループと行うゲームを取り入れ、交流を促すよう工夫した。また、活動2及び5では作品発表とインタビューを行い、交流のきっかけを創出した。

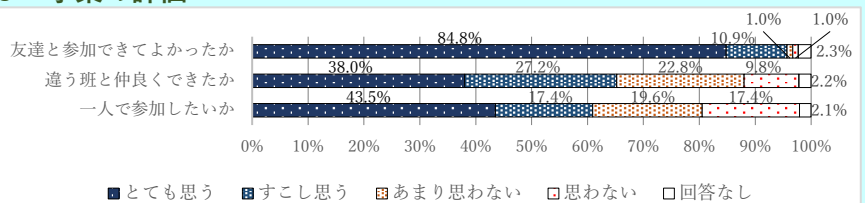


班同士の交流（館内ラリー）



スノーキャンドル点灯式

## 5 事業の評価



### ■参加者アンケートから

- ・友達と参加できたことについて、高い評価を得ることができた。活動の満足度も高く、ねらいを達成することができたと考える。

### ■参加者の声

- ・「チームで協力するのが楽しかった。」「みんなでおそろいのビーズを選んで、かわいいストラップを作ることが出来た。」

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 友達との参加形態は、非常に需要が大きいことが分かった。今後も同様の形態で事業を計画する意義がある。
- 本事業では中学生にジュニアボランティアとして参加してもらった。積極的に参加者に関わろうとする場面が多く見られ、ねらいの達成に資することができた。
- 「違う班と仲良くできたか」という項目について肯定的な評価が65.2%にとどまっていることから、新たな友達を作る喜びを体感できる機会の検討を必要とする。



## 企画のポイント

- 親しい友人との利用で、初めてでも安心して参加できる機会の提供。
- 友人同士の絆をさらに深めるための活動選定と、新たな友達を作る機会の設定。

# ネイパル北見 タグラグビー教室・タグティーチャー研修会

## 1 事業のねらい

誰もがスポーツに親しむことができる「タグラグビー」における指導者養成研修会を開催し、「タグラグビー」の指導者を養成するとともに、スポーツを通じた地域の活性化や青少年の健全育成など、これからの地域づくりに資する人材の育成を図る。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.12.18(日) 日帰り
- 対象 教室：小学3～6年生  
研修会：高校・大学生、教員、スポーツ推進委員等
- 人数 教室：30名
- 場所 北見市常呂町スポーツセンター
- 共催 北海道ラグビーフットボール協会

## 3 プログラム

日 時	9:00		9:30		10:30		12:30	
12/18 (日)	タグティーチャー 研修会	受付	開会	講義		実技	閉会	
					10:00	10:30	12:30	
	タグラグビー 教室		受付			教室	解散	

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

### ■実践活動を取り入れた指導者養成プログラム

・「タグティーチャー研修会」では、前半にタグラグビーのねらいや効果、ルールなどについての講義を行い、後半にタグラグビー教室に参加した小学生と合流しミニゲームなどを行いながら、レフリーの仕方や指導方法などを実践的に学べるようプログラムを工夫した。

### ■地域人材を活用したプログラム

・北海道ラグビーフットボール協会と連携し、地域の少年団等の指導者を講師に迎えることで、専門的な練習方法や競技の特性に関わる情報を参加者に提供することができた。



実践を通してタグラグビーを学ぶ



指導者養成講座を同時開催

## 5 事業の評価

### 参加者の声から

- タグラグビーを初めて体験したが、ルールや練習方法などをわかりやすく教えてもらえてよかった。
- 体育の授業で行ってみたいと思った。
- スポーツが苦手な子どもでも楽しく取り組めるよう、タグラグビーを取り入れてみたい。

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 研修会の参加者から「タグラグビーを初めて体験したが、ルールや練習方法などをわかりやすく教えてもらえてよかった」といった声があったことから、今回の事業を通して、タグラグビーの普及につながった。
- 地元少年団への広報を行うなどして、「タグラグビー教室」の参加者を増やす必要がある。

## 企画のポイント

講義だけでなく、実践的に学べる活動を取り入れた指導者養成プログラム。

# 野外体験活動指導者養成講習会

## 1 事業のねらい

自然教育や野外体験活動に携わる指導者やネイチャーガイド、ビジターセンター職員の技術向上と自然好きの人の交流を目指す。

## 2 事業の概要

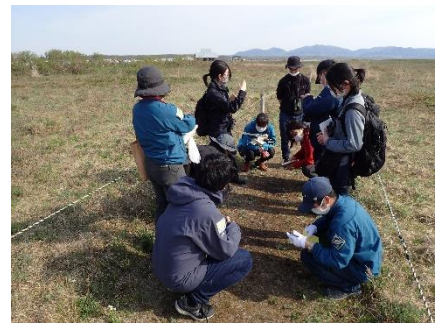
- 期日 令和4年5月10日（火）～11日（水） 1泊2日
- 対象 自然に興味関心のある一般、教職員、大学生  
道東自然系施設ネットワーク加盟の施設の職員  
及びボランティア
- 人数 15名
- 場所 ネイパル北見、ワッカ原生花園

## 3 プログラム

日程	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1日目						開会式	講義①	昼食	講義② 「イク」	講義③ 「アイスブレ」	演習① 「ガイドプランづくり」	演習② 「ガイドプランの取材」	夕食	講義④	入浴・自由		就寝	
2日目	プログラム OP		朝食	講義⑤ 「安全管理」	演習③ 「ガイドプランの準備」		昼食	演習④ 「ガイドプランの発表」		閉会式								

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- フィールドを使った実践プログラム
  - ・ワッカ原生花園の観察路を使った自然観察プログラムの立案を通して解説素材の選定、解説内容の下調べなどを行った。
- 参加者の交流を促すプログラム
  - ・所属施設や専門分野が異なる参加者を、勤務経験の長さや自然に対する知識の量による偏りがないようにグループ分けしガイドプラン作りに取り組んだ。
  - ・経験や感性の違い、自然素材に対する視点や切り口の違いなどを交流する機会を多く取り入れた。



フィールドを使った実践プログラム



参加者の交流を促すプログラム

## 5 事業の評価

参加者アンケートから



- 野外体験に必要な知識や技術を得ることができただけでなく、色々な現場の方と交流し協力しあいながら活動できたことに満足です。
- ガイドを行う上で、わからないことを「わからない」とひとくくりにするのではなく、「自分はこう思う」と説明したり参加者と一緒に考えたり調べたりすることが大切だとわかった。

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 実践的な課題を設定したこともあり、アンケートでも「明日から業務に活かせる」といった前向きな発言が見られた。
- 課題をこなすことに没頭し交流が深まらなかつたという感想が聞かれた。交流を促進する時間も効果的に取り入れていく必要がある。



## 企画のポイント

実践的な体験を通して、参加者が各現場で明日から活かせる技能や態度を養う



# 体験活動リーダー養成講座

## 1 事業のねらい

体験活動に必要な知識や技能、主催事業など人を集めて行う際に感染症対策として配慮すべきことについて実践を通して学ぶ。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.8.6(土)～8.7(日) 1泊2日
- 対象 高校生から一般
- 人数 13名
- 場所 北海道立体験活動支援施設ネイパル足寄

## 3 プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1日目								受付	開会式	アイスブレイク	ボランティア活動の意義	夏フェスに向けた話し合い	入室・休憩	夕食	ふりかえり 前日準備	入浴 交流時間	就寝準備	就寝
2日目		布団消毒	朝の検温	朝食	部屋整理	活動準備	退所式	夏フェスにボランティアとして参加										

【アイスブレイク】無言で絵しりとり、文章しりとりで自己紹介、自己開示ポスターづくり

【ボランティア活動の意義】事業担当者による講話、ボランティアを通して自分の成長を考えさせる

【夏フェスに向けた話し合い】役割分担、参加者が体験しやすい会場設営や説明の仕方を考え、実践する

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

### ■事業日程の工夫

- ・実践を通して体験活動を支援するボランティアリーダーとしての力を育成するため、1日目に「講義・演習」で知識や自分の考えを深め、2日目の「実践（今回は夏フェスのボランティア活動）」を通して実践的な力を付けられるようにした。

### ■日常生活にある感染症対策を徹底する

- ・高校、大学、その他公共施設など普段の生活の中で実践されている感染症対策を想起させ、夏フェスで行うべき感染症対策について考えを出させるようにした。

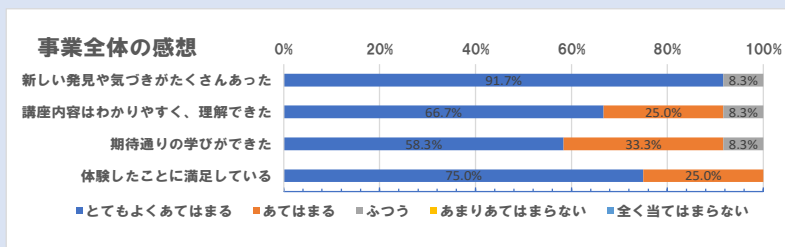


創作活動（おがカラー）の説明



感染症対策として玄関での検温もボランティアが実施

## 5 事業の評価



### ■参加者の声

- ・実践を通して相手の立場になって物事を考えることや他人との関わり方などを学んだので今後のボランティア活動に生かしたい。

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- （「新しい発見や…」肯定評価 91.7%）2日目に実践体験を入れたことで、ボランティア活動に対する新たな発見をさせることができ、次の事業にいかせるものとなった。
- （「講義内容は…」最上位評価 66.7%）スクリーンの文字が見にくい、講義内容が難しかったなどの意見があり、予備資料の作成や資料提示の工夫が必要である。



## 企画のポイント

夏子どもフェスという実践を通して、体験活動やボランティア活動への理解を深める。

# ジュニアリーダーコース in ネイパルあしよる

## 1 事業のねらい

事前学習や講師講話から、自分の住むまちの魅力を認識し、グループでのバスツアー企画を通して、自分のまちの魅力をどう伝えるか考える活動を行う。

## 2 事業の概要

- 期日 R5.1.7(土)~1.8(日) 1泊2日
- 対象 中学生・高校生
- 人数 14名
- 場所 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄
- 講師 一般社団法人ドット道東 専務理事 野澤 一盛 氏

## 3 プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1日目				9:30 受付開始	受付	開 会 式	プ レ イ ス ア イ ス	講 師 講 話	研 修 I	昼 食 休 け い	研 修 II	休 け い	研 修 III	夕 食	研 修 ふ り か え り	入 浴 交 流 レ ク	就 寝 準 備	就 寝
2日目	起 床	洗 面 ・ 検 温 布 団 消 毒	朝 食	部 屋 清 掃	部 屋 点 検	研 修 IV	研 修 発 表 ま と め	昼 食 休 け い	発 表 会	開 会 式	14:30 解 散							

- ・研修 I…一般社団法人ドット道東 専務理事 野澤 一盛 氏による講話
- ・研修 II…グループワーク A「若い世代が考えるわがまちの魅力について」
- ・研修 III…グループワーク B「バスツアーのチラシづくりに挑戦！」
- ・研修 IV…IIIの続き、グループ発表練習

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- ドット道東の野澤氏による講話
  - ・事業の導入で現在道東を中心に様々なプロジェクトを行っている野澤氏の取組について説明をいただいた。「外から見える十勝の魅力」を知ることによって自分のまちの良さを再認識できるにした。
- グループでバスツアーを企画する活動
  - ・グループワークの導入として、「若い世代が思うわがまちの魅力」を付箋に書き出し、マトリクス表にまとめた。その後、グループのメンバーのまちの魅力が伝わるバスツアーを企画してもらい、魅力が伝わるツアーのチラシづくりを行うようにした。



野澤氏による講話（研修 I）



企画したバスツアーのプレゼン  
質問事項に応える様子

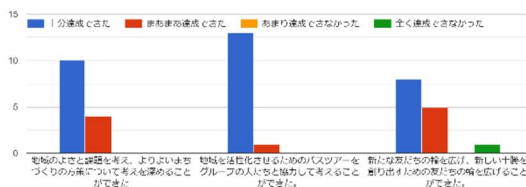
## 5 事業の評価

### ■参加者の声

「野澤さんの試みや情報発信のやり方、そして道東だからこその魅力を知ることができた。」

「話を進めてくれる人だけに任せるのではなく、自分に出る仕事を探すことが、わたしにとって今回のリーダー研修で必要だと思った。」

それぞれ1つずつ選択してください



## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 地域を活性化させるための手立てとして2日間で「地域の魅力が伝わるバスツアーづくり」を企画した。参加者アンケートからは協力して考えることができたという肯定評価が100%であり、成果があったと考える。
- 参加者や保護者との情報共有ツールとしてLINEのオープンチャット機能を利用し、資料や写真提示を行ったが、利用できない参加者への手立てが不足していた。



## 企画のポイント

地域の魅力が伝わるバスツアーを企画する中で、地域の中で自分ができることを模索させる。

# アイスブレイク講習会

## 1 事業のねらい

教職員や企業研修担当者等を対象に、新学期・新年度に向けて人間関係の重要性の理解やアイスブレイク技術のスキルアップを図る。

## 2 事業の概要

- 期日 R5.3.27(月)・28(火) \*両日同内容で開催
- 対象 教職員、教員を目指す学生、企業研修担当者等
- 人数 3.27：8人、3.28：4人 計12人
- 場所 ネイパル厚岸大研修室

## 3 プログラム

13:30		14:00		14:05		14:30		15:55		16:00	
3/27 (月)	受付	開会	活動1 「アイスブレイクの理論」 (理論研修)	活動2 「アイスブレイクの実技」 (実技研修)	閉会	解散					
3/28 (火)											

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 人間関係構築に関する理論研修プログラム
  - ・令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(北海道)や令和4年度青少年インターネット利用環境実態調査(速報)等に基づき、現代の児童・生徒、新社会人が抱える課題や人間関係の傾向等について分かりやすく理解が得られるよう工夫した。
- アイスブレイク技術の向上を図る実技研修プログラム
  - ・実技中心で講習会を構成し、参加者自身が被験者となることで人数や会場の大小に関わらず誰でも楽しく他者と交流できる技術を体得できるよう工夫した。



全身を使ったジャンケン交流



全員息を合わせたボール運び

## 5 事業の評価(参加者アンケートから)

- 参加した感想を教えてください
  - ・間違えてもOKという雰囲気楽しく活動できた(教員)
  - ・「易→難」「個→集団」の流れが分かりやすかった(町教委職員)
- 今後、仕事や生活に生かせそうですか
  - ・早速4月の学級開きで実践したい(教員)
  - ・保育士など大人の研修機会でも生かせそう(心理士)
  - ・小学校の親子レクなどで使えそうです(保護者)
- 今後ネイパルで学んでみたいことはありますか
  - ・キャンプファイヤーや火起こしなどの野外活動 3人
  - ・コミュニケーション指導(ロールプレイ含む) 3人
  - ・施設見学やネイパルのアクティビティ紹介 2人

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートでは、「アイスブレイクの理論や手順が分かりやすかった」「本で読むだけでは分からないことが理解でき自信につながった」など肯定的な意見が多く、4月から学校等での実践が期待できる。
- 年度末の平日開催であったため先生方が参加しやすい日時の検討が必要である。また、名称を「アイスブレイク体験会」にするなど参加を得やすい工夫が必要である。



### 企画のポイント

根拠データに基づく児童・生徒の現状理解及び体験を通じて技術を体得する場面の設定。